



## Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通じた「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。この度のコロナウイルス感染拡大と2020年2月25日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを2020年3月17日より連続的に無料開催しています。

### カテゴリ：

行政・医療・教育機関向け

開催日時：2020年4月18日

### 講師：

つがる市立育成小学校  
マイクロソフト認定教育イノベーター  
エキスパート  
Flipgrid 認定教員レベル3  
特定非営利法人学修デザイナー協会理事  
前多 昌顕氏



東京学芸大学教育学部卒。  
青森県つがる市立育成小学校教諭。  
初任の頃よりICTの教育活用に興味を持ち研究を進める。  
いったんICT教育と距離を取り、研究対象を思考ツールにしたが、プログラミング教育必修化をきっかけに再開する。  
マイクロソフト認定教育イノベーター。  
日本初のFlipgrid認定教員レベル3。  
青森県プログラミング教育研究会発起人で事務局長。  
embot認定ティーチャー。  
NPO法人学修デザイナー協会理事で学修デザインシート開発者。  
日本見切れ写真協会家元。

## リアルタイムじゃなくてもオンライン授業は実施できる

日本の小学校ではいま、プログラミング教育が必修化され、教育現場のICT化が進んでいます。緊急事態宣言を受けて休校する学校も多い中、オンライン授業による在宅学習が模索されているところです。

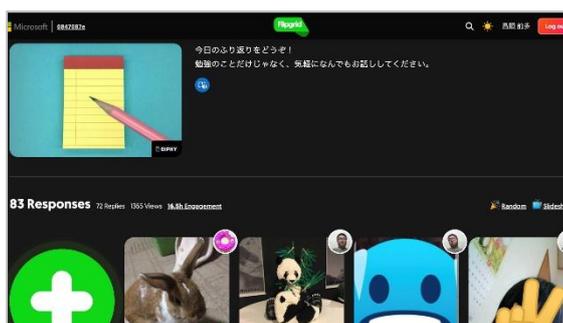
津軽平野の真ん中に位置する育成小学校は児童数が32名。全学年が複式学級（2つ以上の学年を1つにした学級）です。現在、5年生・6年生の10名を担当している前多氏は、初任の頃からICTの教育活用を研究しており、2018年からはFlipgridを全国に先駆けて教育現場に導入しました。

「Flipgridは、動画で与えられた問いかけに対して、子どもが動画で反応し、その反応にも動画で応えられる画期的なツール。私のPC体験の中でもあんなにワクワクしたのは十数年ぶりです。これは子どもたちに受け入れられると直感して、使わせてみました。予想通りで思わずニヤリとしたことを覚えています」（前多氏）

育成小学校はICT環境に恵まれているとは言えません。デスクトップPCは古く、タブレットはスペックの低いものがかるうじて10台あるのみ。それでもFlipgridは問題なく機能し、小学校1年生でも使えると前多氏は断言します。

「最初は2年生の体育と図画工作に使い、今は5年生・6年生のすべての教科でほぼ毎日利用しています。私にも子どもたちにも必要不可欠なツールです」

前多氏によれば、FlipgridはIDもしくはQRコードがないと入れない仕組みで、モザイクやstickerを使って簡単に顔を隠せるため、子どもたちの安全を守ることができます。



# Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

では、具体的には小学校の授業でどのように Flipgrid を活用しているのでしょうか。前多氏は4つの事例を示しました。

1つ目は、学習指導要領でも重要視されている「振り返り学習」。Flipgrid は大いに有効だと前多氏は指摘します。「ノートで学ぶ国語や算数などは振り返りがしやすいのですが、音楽や体育、図画工作などは十分な振り返りができていたとは言えません。動画を使える Flipgrid を活用すると子どもが自分で動画を見直すことができ、有効だとわかりました。プログラミング教育や書き取りのない小学校英語にも、紙ではなくコンピュータを使っただけの振り返りが馴染みます」

2つ目はプレゼンテーション教育。スライドなどは作業時間がかかるのに対して、Flipgrid を使えば、資料を撮影しながらコメントを加えるだけでプレゼンテーション動画を簡単に作成することができます。

3つ目は「ホワイトボードモード」を活用して手書きで発表すること。例えば、分数や面積の計算の仕方を、板書のような手書きと音声で収録して相手に見せることができます。ただし、オンライン授業だからと言って授業時間にリアルタイムの動画を流し続ける必要はないと前多氏は断言します。

「小学生が45分間、ずっと集中して見続けられるか、という問題があります。家庭によっては通信料も問題も生じます。必要なときだけつながればいいのです」

リアルタイムではないことは意外な面でも役立ちます。小学校における外国語活動です。

「Flipgrid は海外の教育現場でよく使われているので、教員同士がつながれば海外の子どもたちとの交流もできます。リアルタイムでの英会話は日本の子どもたちは尻込みするのが普通ですが、タイムラグのある動画でのやり取りであれば余裕を持てますし、時差も心配する必要がありません。動画には自動的に字幕が付くので、字幕データを自動翻訳アプリで日本語に直すことも可能です。簡単なやり取りでも子どもの顔は輝きます」(前多氏)



Flipgrid を日常的に活用していた教育は、3月2日からの休校期間に功を奏したと前多氏は振り返ります。子どもたちには1週間分の課題を与えたものの、「春休みでもないのにそれだけでいいの？」と子どもたちとコミュニケーションを図る必要を感じたからです。

前多氏は各家庭に手紙を書き、家庭のパソコンやスマートフォンに無料アプリである Flipgrid を任意でインストールしてもらいました。子どもたちは使い慣れた Flipgrid で1日の勉強の振り返りを動画で投稿。前多さんはすべての動画にコメントを付け、子どもたち全員に語りかける動画も発信し続けました。

「コロナウイルスの感染拡大は長引きそうな気配です。であれば、対面に縛られない教育を考えることが必要で、それに合わせた授業デザインをしていかなければなりません。でも、すべての科目のオンライン授業を1人で作るのは大変です。他校の先生と手分けをして、自分が担当するオンライン授業をいろんな学校の子どもたちが受ける、なんて展開も考えられると思います。あくまで私も妄想ですけど」(前多氏)



今からオンライン授業の導入を検討している教員の方々に前多氏からアドバイスがあります。「学校以外でのお試し」と「教室での予行演習」の2点です。

「巷で流行っているオンライン飲み会に参加したり、自分で主催してみると感覚がつかみやすいと思います。失敗してもいい場所で試すのです。子どもたちにも練習が必要です。教室で『家でやっているつもりで Flipgrid を使ってね』と伝えて予行演習をしてください」

前多氏が勤務する育成小学校は、児童数の減少に伴って来年3月の閉校が決まっています。近隣の3つの小学校に転校することになる子どもたちに、前多氏は「自分が手に届く限りの楽しいICTを最後まで伝えていきたい」と思っているそうです。

「最先端のICTで学んできた育成小学校出身だぞ、という誇りを持って旅立ってほしいと思っています」(前多氏)